

点検表Q&A【発注者&受注者用】

番号	意見・質問	回答
0		点検表は、「散水消雪施設設計施工・維持管理マニュアル」(平成 20 年8月発行:(社)日本建設機械化協会北陸支部、(社)新潟県融雪技術協会)(以下「マニュアル」という。)に掲載のもの(p170)を基に作成しました。
1	点検総括表の『点検結果』『健全度』欄以外は、担当庁舎にて記入・管理されたものを支給していただきたい。(落札業者は過年度の経緯を把握していないため。)	『整理番号』『路線名』『位置』『供用年度』『区間延長』『更新年度』については、発注者が記入し支給します。 ただし、点検の際に、2つ以上の井戸が1行にまとめて記入されている箇所が確認された場合については、監督職員へ報告した上で行の追加と整理番号の見直しをお願いします。 また、『ブロック名』が無記入の箇所については、監督職員と協議の上、管理しやすい名称を設定し記入してください。
2	路線毎の管理を行うのか、井戸毎の区間割にて管理するのか。	井戸毎に管理します。(点検総括表については、1つの井戸につき1行。点検記録表については、1つの井戸につき1枚)
3	【散水設備>>配管設備>>ノズルの調整】とは、散水量の調整のことか。	そのとおりです。
4	・【散水設備>>路面】や【散水設備>>流末排水】については、道路全体の維持修繕の業務内容なのではないか。 ・【散水設備>>流末排水】について、路面上の泥、塵埃、砂礫の清掃等を行っているが、側溝、排水管、柵の清掃等については、道路全体の維持修繕の業務内容なのではないか。	簡易な清掃を除き、修繕や清掃自体は、点検補修業務以外の別の業務や請負工事で実施することになると思いますが、施設が適切に機能するために必要な点検内容となります。異常や汚れがあった場合は、点検表に記入した上で監督職員へ報告をお願いします。発注者はそれを基に修繕や清掃を検討することになります。

点検表Q&A【発注者&受注者用】

番号	意見・質問	回答
5	<ul style="list-style-type: none"> ・【散水設備>>配管設備>>配管内部サビ等チェック】は、補修時しか確認できないのではないかな。 ・【散水設備>>配管設備>>配管内部サビ等チェック】は、内部の目視はできないが、排水の水の濁りの確認でよろしいか。 ・【散水設備>>配管設備>>配管内部サビ等チェック】は、どのようにして実施するのか。シーズン初めにはドレーンから泥抜きするのでサビも出るが、進行状態まではわからない。 	<p>点検補修業務の中に漏水箇所の修繕等が含まれており、配管内部を確認できる場合を除いては、排水の水の濁り等により判定してください。</p>
6	<p>【取水設備>>ポンプ設備】の点検について、点検記録表の点検内容での点検は可能であるが、『健全度の目安』に沿った点検はポンプの引上げが必要であるため実施が難しい。</p>	<p>ポンプ設備の健全度のⅡ①『揚水量減、揚砂量増大、運転水位低下量の増大』の場合は健全度をⅡとし、ポンプ設備の健全度の目安に応じた修繕方法Ⅱ①『ポンプ引上げ分解、揚水試験(詳細点検)』が必要な旨を点検記録表に記入してください。</p> <p>その後、『ポンプ引上げ、揚水試験(詳細点検)』を行ったとき(別業務の可能性もあり)に、その結果に応じた修繕方法を検討することになります。</p>
7	<p>【取水設備>>ポンプ設備】の点検について、車道内にあるものについてはマンホールを開ける毎に規制が必要であり、多大な費用が必要となる。</p>	<p>ポンプの点検費及び必要な安全費(交通誘導員等)を計上する予定です。</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> ・【井戸設備>>井戸】については、目視による総合点検は可能であるが、その他については実施が困難である。 ・【井戸設備>>井戸>>揚水量】等については、点検清掃業務には含まれていないのではないかな。 	<p>井戸については、設計書に簡易揚水試験、水質試験が計上されている場合を除いては、揚水量、水質は記録不要です。</p> <p>また、井戸内(埋没及びケーシング管腐食)についても、ポンプ引上げまたは水中カメラによる井戸内点検が設計書に計上されている場合を除いては、点検不要です。</p>
9	<p>【取水設備】【井戸設備】について、ポンプ室内の水没などで点検不可の場合も想定していただきたい。</p>	<p>特異な事由により点検不可の場合は、点検表の「特記事項」欄にその状況等を記入しておいてください。</p>

点検表Q&A【発注者&受注者用】

番号	意見・質問	回答
10	<p>【降雪検知器>>調節ボリューム／感度の良否】については、実際に降雪があつて使用していかないと判断できないのではないか。【回路の状況】も専門業者でないと判断できないのではないか。</p>	<p>・ マニュアルの『4.3.3 点検方法(9)降雪検知器』に記載の点検方法※により点検をお願いします。</p> <p>※ ①気温降水型(雪温降水型)…濡れたハンカチ等を受雪板に寄せテストしてみる②積雪重量型…重量物を乗せてテストする③光型…ハンカチ等で光を遮断してみる</p> <p>・ 【回路の状況】については、降雪検知が正常に作動する場合はA(正常)と判定し、メーカー取扱い説明書外の故障が出た場合などは、監督職員と協議した上で専門業者等から点検してもらうようお願いします。</p>
11	<p>井戸から散水設備までの送水管(横引き管)の漏水の確認を加えてはどうか。(農道に埋設された送水管の老朽化による漏水が多い。)</p>	<p>井戸から散水設備への送水管の漏水については、【散水設備>>配管漏水】と同じ点検内容として扱ってください。</p> <p>なお、送水管の漏水は、施設の機能に直結するものであるため、点検表の「特記事項」欄にその状況等を記入し、監督職員へ報告をお願いします。</p>
12	<p>更新する優先順位※¹ を記載できるようにすると計画的な更新が可能になるのではないか。また、散水状況に関するコメント※² を記載できる欄もあると良いのではないか。</p> <p>※1 施設面、地域性、総合など</p> <p>※2 「シーズン後半に水枯れが発生した」「2、3年前から水の出が悪くなっている」など</p>	<p>・ 更新の優先順位については、基本的には健全度Ⅳ→Ⅲの順で更新していきます。ただし、Ⅳ又はⅢの箇所が膨大で予算的に全ての早期更新が困難な場合は、ご意見にある例のような項目を考慮し、更新順を判断していくことになるかと思います。</p> <p>・ 散水状況に関するコメントについては非常に貴重な情報となりますので、発注者と共有する必要があるものや今後管理していく上で有効なもの等がありましたら、点検表の「特記事項」欄に記入をお願いします。</p>